



いよいよ始まる!

第30回 霧島国際音楽祭 2009

毎年、みやまコンセールを主会場として開催される霧島国際音楽祭が、今年も7月24日(金)から8月9日(日)まで17日間にわたり開催されます。期間中は、世界各地で活躍する50人余りの著名な音楽家が霧島に集い、40回のコンサートを行います。

また、世界の名演奏家が、国内外から集まった受講生に行うレッスンが公開されます。

これまで、多くの優れた音楽家を世界に送り出し、音楽を通して国際交流の促進や文化振興に貢献するなど、アジアを代表する音楽祭として高い評価を得ている霧島国際音楽祭。今年で記念すべき30回を迎える霧島国際音楽祭の魅力を紹介いたします。

霧島国際音楽祭を もっと知ろう!

霧島国際音楽祭は、1980年に「霧島国際音楽祭・講習会」の名称で始められました。1975年、鹿児島短期大学で教授をしていた野村三郎氏が、親交のあったドイツの代表ヴァイオリニスト、ゲルハルト・ボッセ氏を霧島に案内し、講習会の開催を依頼したことがきっかけです。

霧島の自然に魅せられたボッセ氏と地元有志による手作りの音楽祭は、「技術的にも、人間的にも自立できる音楽家を育てること」を理念に掲げ、演奏会と講習会を2つの柱に開催されました。第1回目は、ボッセ氏とチェロ奏者のアダルベルト・スコッチチ氏を迎え、霧島高原ユースホステルを会場に、家庭的な雰囲気のある音楽祭となりました。

その後、講習会は弦楽器部門に加えて第3回からオペラ部門、第5回からはピアノ部門が設けられ、スメタナ四重奏団、ピアノのヤン・パネンカ氏、アマデウスウエーバー・ジンケ氏、声楽のリュシユト・ライヒ氏など、世界的なトップアーティストが、講師・演奏家として参加し、海外からの受

講生も迎えるようになりました。また、第15回目の音楽祭が開かれた1994年には、建築、音響とも世界トップクラスの霧島国際音楽ホール(みやまコンセール)がオープン、素晴らしい演奏環境が整いました。

毎年オーディションで選ばれる受講生の水準は年々向上しており、これまでに霧島で学んだ多くの受講生が、日本国内はもちろんのこと、世界各地で活躍しています。

今日では、ボッセ氏を名誉音楽監督、堤剛氏を音楽監督に迎え、質の高い「演奏会」、音楽祭の原点である「マスタークラス(講習会)」、音楽と人との結びつきを深める「交流」の3つの大きな柱で成り立っています。昨年は、154人の受講生が霧島で学び、会期中12、199人の観客が一流の音楽を楽しみました。

30回の節目を迎える今回は、国内外の著名な音楽家による趣向を凝らしたコンサートがさまざまな会場で繰り広げられます。この機会に、世界の音楽家たちが奏でる美しいハーモニーを満喫してみたいかが。



「霧島国際音楽祭は、みんなで一緒になって何かを作り上げようという雰囲気が素晴らしいし、強いと思います。ここでは、講師が受講生を自分の生徒というより、むしろ仲間として一生懸命サポートしようとしているのがわかります。」

堤剛 *Tsuyoshi TSUTSUMI*
霧島国際音楽祭音楽監督

桐朋学園大学卒業後、インディアナ大学でJ.シュタルケル氏に師事。1963年ミュンヘン国際音楽コンクール第2位、カザルス国際コンクール第1位。1988年～2006年、インディアナ大学教授。現在、桐朋学園大学学長およびサントリーホール館長。



「霧島国際音楽祭は、若手にとって、音楽家として飛び立つためのきっかけ、スターティング・ポイントとなるような位置にあると思います。」

ダン・タイ・ソン *Dang Thai Son*
ピアノ

ベトナム出身の国際的な名手。モスクワ音楽院留学中の1980年、ショパン国際ピアノコンクールでアジア人初の優勝者となる。これを機に国際的な活動を始め、リサイタルのほか世界中の著名なオーケストラと共演、音楽祭への出演、コンクールの審査、教育活動にも精力的に取り組んでいる。



下野 竜也 *Tatsuya SHIMONO*
指揮

1969年鹿児島市生まれ。鹿児島大学教育学部音楽科を経て、キジアーナ音楽院でオーケストラ指揮のディプロマを取得。第12回東京国際音楽コンクール<指揮>優勝(第1位)、齋藤秀雄賞受賞。第47回プザンソン国際指揮者コンクール優勝(第1位)。2006年読売日本交響楽団正指揮者に就任。2007年上野学園大学音楽文化学部教授に就任。

ほかにも、フルート奏者のエミリーパイノンさん、過去に霧島大賞を受賞しているチェロ奏者の長谷川 陽子さんなど、総勢50人余りの著名な音楽家たちが、最高の演奏で感動を伝えます!

かごしまから音楽の素晴らしさを

霧島に集う、世界のトップアーティスト



堤氏による講習の様子。



ダン・タイ・ソン氏による講習の様子。

霧島国際音楽祭 名誉音楽監督

ゲルハルト・ボッセ氏が語る

第30回霧島国際音楽祭への思い

霧島国際音楽祭が30回を迎えるということで、音楽祭の歴史を振り返ってみると、小さな音楽祭が年を経るごとに、このように国際的な音楽祭に発展してきたという大変感慨を覚えるとともに、感謝の気持ちでいっぱいになります。はじめは音楽監督として、今は名誉音楽監督として、自分も歩んでくることができました。今年も元気に指揮をさせていただける幸せを、今かみしめているところです。

霧島国際音楽祭の一つの柱になっている講習会は、講習会で習うだけでなく、それをファイナルコンサートで実演できる形になっています。また、もう一つの柱になっている、質の高いたくさんさんのコンサートは、霧島国際音楽祭独特の大きな長所です。このような音楽祭を講師や受講生が本当に長い間続けてきてくださったことに、誇りをもっています。

コンサートも講習会もどちらも同じくらい高いレベルで、それを30年間保ってきたという音楽祭は、そうそうないと思います。短期間の講習会ですが、受講生たちは霧島にいる間に将来の方向づけや、音楽家という職業に臨む心構えを学び、感じて帰ったと思うのです。それが発展

今回のファイナルコンサートのプログラムについて

今年、ハイドンの没後とメンデルスゾーン生誕200年という記念の年が重なっています。それに霧島の30周年も重なっているということで、この二人の作曲家をメインに、それにベートーヴェンの序曲を組み合わせてプログラムを組みました。偉大な二人の作曲家をたたえ、なおかつ、受講生が今までに学んできた成果をあらわして、霧島の30年の音楽の歴史を振り返るのにふさわしいプログラムになっていると思います。

して、今では全国のオーケストラに霧島の根っこから育っていった人たちが、新しい根をおろして頑張ってくれている。霧島国際音楽祭からまかれた種が、全国に広がってちゃんと芽を出して育ち、素晴らしい結果がでているというのは、本当にもうクライマックスの中のクライマックスといえると思います。環境の面では、みやまコンセルという建築面からも音響面からも国際的なトップレベルの水準である素晴らしいホールが出来上がり、本当に幸運だったと思います。

発信します!

ゲルハルト・ボッセ *Gerhard Bosse*
霧島国際音楽祭名誉音楽監督

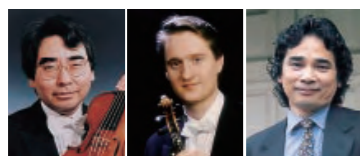
元ライブチヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団第1コンサートマスター。1962年ゲヴァントハウス・バッハ管弦楽団創設。1980～2000年霧島国際音楽祭音楽監督。

かごしまで最高の音楽に触れよう♪

～霧島国際音楽祭の見どころ、聴きどころ～

期間中、40公演を開催予定。30回の記念にふさわしく、華やかで、にぎやかに楽しめるプログラムとなっています。

お薦めのコンサート



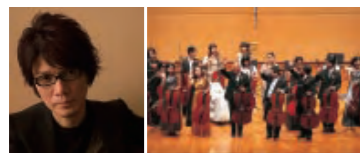
■オープニング・スペシャル・ガラコンサート

○日時/7月26日(日) 午後3時30分開演
○会場/みやまコンセール(霧島市)
30回を祝おう!華麗なるコンチェルト/協奏曲のガラ。
鹿児島交響楽団(管弦楽)、コールみやま(合唱)も出演します!



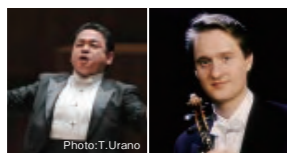
■ピアノ! ピアノ!! ピアノ!!!

○日時/8月1日(土) 午後1時開演
○会場/みやまコンセール(霧島市)
ピアノの祭典 ソロから8人16手、80(指)フィンガーまで。
ダン・タイ・ソン、練木 繁夫、若林 顕のピアノ豪華共演。



■篤姫の音楽とチェロ・オーケストラの夕べ

○日時/8月1日(土) 午後5時開演
○会場/鹿児島市民文化ホール
吉俣 良が贈る『篤姫』の世界、
堤 剛が率いる20本のチェロで聴く華麗な名曲。



■キリシマ祝祭管弦楽団公演

○日時/8月7日(金) 午後7時開演
○会場/宝山ホール(鹿児島市)
鹿児島出身の下野竜也 指揮。第30回霧島国際音楽祭の
講師陣を中心に構成された、特別編成オーケストラ!



■ファイナル・コンサート

○日時/8月9日(日) 午後2時開演
○会場/みやまコンセール(霧島市)
名誉音楽監督ゲルハルト・ボッセ指揮。霧島ファイナル・コンサート・オーケストラ。
フィナーレを飾るのは、生誕200年メンデルスゾーンの名曲。

このほかにも、霧島神宮で行われる「かがり火コンサート」や親子で楽しめる「ファミリーコンサート」、県庁2階ロビーで行われる「県民ふれあいコンサート」など、一流の音楽を気軽に楽しめる素晴らしいコンサートが盛りだくさんです。

公開されるマスタークラス

世界の名演奏家が、国際色豊かでレベルの高い受講生に実践指導する「学び」「啓発」の現場は、音楽の専門知識はなくても一見の価値あり!全マスタークラスのレッスンが有料で公開されます。聴講は、当日音楽祭事務局(みやまコンセール楽屋口)で受け付けています。スケジュールなど詳しくは霧島国際音楽祭ホームページ(<http://www.kirishima-imf.jp/>)をご覧ください。



世界トップクラスの音響

みやまコンセール(霧島国際音楽ホール)は、1994年、音楽祭のために建設されました。主ホール(770席)は国際音響学会で「奇跡のホール」と称賛された世界トップクラスの音響を誇ります。外洋に乗り出す船をイメージした外観に、55,000㎡の敷地には菩提樹と散策路が続き、自然と音楽を満喫できる特別な空間です。



A 心を込めて腕をふるった料理を前に、笑顔のボランティアの皆さん。
B 毎年、一流の音楽家たちが楽しみにするランチバイキング。「これを楽しみに霧島に来ました」との声があるほど。
C アーティストと住民の交流の場でもあるシンフォニーの丘のビュッフェパーティンみやま。テーブルには県内各地から集まったボランティアによる手作り料理が並びます。

霧島国際音楽祭友の会は、音楽祭を支援する地元の音楽愛好者の集まりで、鹿児島、霧島の3つの「友の会」がボランティアスタッフの事務局として、音楽祭を多くの人に知らせる活動や、演奏会のドア係、案内などさまざまな活動を行っています。なかでも、牧園友の会は、地元に着し愛される音楽祭にしたいと、音楽祭開始当初から尽力されている池田会長を筆頭に、おもてなしの心で音楽祭関係者を支え、音楽祭を盛り上げています。

期間中、ホテル住まいの音楽祭関係者に毎日手作りの昼食をバイキングで提供する「みやまの森のランチ」や、アーティストの方々が休憩時間に楽しむコーヒーや手作りお菓子の提供、また、期間中2回、アーティストやコンサート来場者へ心温まる料理が振る舞われる野外パーティ「シンフォニーの丘のビュッフェパーティンみやま」の開催など、食事によるおもてなしに最も力を入れており、心配りの行き届いた活動は、霧島国際音楽祭の魅力の一つとして、全国的に知られています。ほかに、アーティストや来場者へのワインサービスや、不足する練習用のピアノを補うためマスタークラス受講生に家庭のピアノを提供するピアノホームステイ、これらの活動を実際に行うボランティアの募集など、さまざまな活動で音楽祭を支えています。「霧島での素晴らしい音楽祭が30年も続けられることがすごいこと。私たちは、喜んでいただけるように自分たちができることを今後も続けていきたいです」と笑顔で話す副会長の丸野さん。



霧島国際音楽祭牧園友の会副会長 丸野 涼子さん

霧島に来られた方、皆さんに来てよかったと思ってもらいたいです。霧島の自然に囲まれた、こんなに素晴らしいロケーションで、質の高い演奏を聴くことができ、アーティストの方々と交流できるのは本当にすごいことです。ぜひ霧島国際音楽祭にいらしてみてください。



霧島国際音楽祭牧園友の会会長 池田 政晴さん

経済的理由で霧島での音楽祭開催が危ぶまれた時、何とか音楽祭を地元で定着させたい、地元住民と音楽家との交流を深めたいとの思いで、1986年に友の会を立ち上げ、自分たちができる活動を続けてきました。現在、地元では、霧島国際音楽祭は地元の音楽祭という認識がほぼ浸透しています。また、地域の女性たちによるきめ細かい心配り、音楽祭に関わることで自分たちも成長したいという熱い思いには感心しています。

今後も、ここ霧島で音楽祭を続けていくために、おもてなしの心で活動を続けていきたいです。地元だけでなく、より多くの方々に音楽祭のことを知ってもらいたいですね。

わたしたちも支えています!

霧島国際音楽祭 牧園友の会

霧島国際音楽祭は地元ボランティアの献身的な取り組みに支えられ、発展してきました。